

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

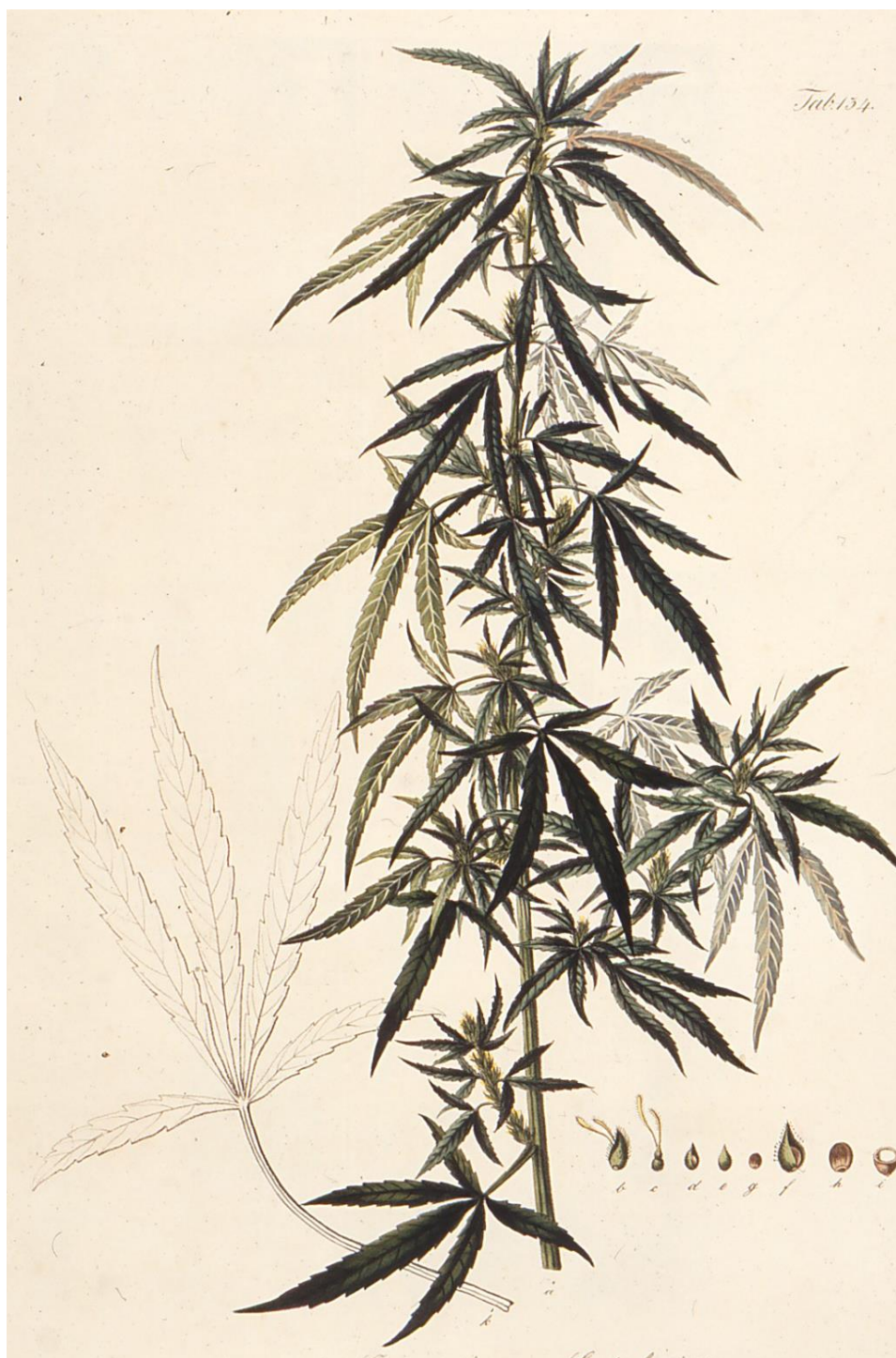
ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第61回

アサ



アサは学名がCannabis sativa L.で雌雄異株の1年生草本です。大麻成分はカンナビノイドと総称され、それらの生合成研究やカンナビノイドに関わるCB1, CB2レセプター、2つの内在性リガンド等が発見され、研究のすそ野が広がっています。

アサは大麻草とも呼ばれ、大麻取締法で厳しく規制されています。昨年からの取締法が改定され、アサの葉、主成分のテトラヒドロカンナビノール(THC)等が麻薬及び覚せい剤取締法に移行し、また、栽培者の免許も繊維・種子目的と薬用目的の2種に分けられ厳しい罰則も盛り込まれました。

このことによりTHCおよびカンナビジオール(CBD)が麻薬性の医薬品として臨床で使われることとなります。なお、THCは嘔吐、体重減少、睡眠時無呼吸症候群、鎮痛等の目的で、又、CBDは難治性てんかんの治療薬として欧米で承認されています。

本画はアサの雌株の開花期で、1829年Wagnerにより描かれました。